

環境プロジェクトを核にサステナブル志向を追求

化粧品容器の総合商社であるグラセルは、スキンケアからメイクアップ、ヘア&ボディーケア、トイレタリー製品まであらゆる化粧品容器を取り揃える中、強化項目に掲げるサステナビリティへの取り組みを製品開発にも活かしている。その中核となる「GLASSER ECO PROJECT」(グラセル エコプロジェクト)では、地球環境に配慮した環境対応型容器の製品化が進む。出展する第10回化粧品開発展では、エコプロジェクトのコーナーを目立つ位置にレイアウトし、環境対応シリーズやメール便対応シリーズなどから新製品も展示する。

新製品開発は容器屋の心臓部 トップダウン型の開発も再開

同社は一般容器の新製品開発に継続投資しており、主力のスキンケア容器のラインナップを拡充して、メイクアップ用ヘア&ボディーケア用、トイレタリー用といった様々なカテゴリー容器の開発も並行して進めている。部署間連携

を強化し営業担当からの情報も細かく収集し精査していくことでタイムリーな製品開発、営業提案につなげていく。

エコ容器でイニシアチブ獲得へ プロジェクトに新たな支援策も

サステナブルな企業価値の向上を目指す「グラセルエコプロジェクト」では、「植物由来プラスチック(バイオマス)」「紙」といったエコ原料の容器への応用と、「詰め替え容器」「樹脂量削減容器」「ガラス容器」「ガラス容器」の普及という大きく2つの取り組みを進めている。このほ

の方向性を示した。「日本国内が人口減少にともなう市場縮小が避けられない以上、容器業界もサバイバル時代を迎える。グラセルにしかできない。グラセルだからこそ実現できる。魅力ある製品とはそういう価値によって成り立つものである」

その実現に向けて、谷村社長自ら新製品の企画開発に率先して加わって取り組んでいる。またテスト段階ではあるものの、複数の企画を並行して進めているという。「ここ数年は社員の頑張りもあって業績も大きく伸びているが、19年は

から、自社の環境方針を定義づけて製品に落とし込んでいく。

「どれだけ環境にやさしい容器でも価格が高ければ、これまでと何も変わらない。価格にも満足していただけのエコ容器

メール便対応の容器に

本品サイズを新たに開発

また、輸送コストと輸送に関わるCO₂排出量を削減の観点から「メール便対応」シリーズをこのほど拡充した。

新たに、本品サイズのメール便対応容器を開発した。厚さ25mm以下の化粧水ボトルとジャー容器の2種類を第1弾としてラインナップした。メール便対応の主流はサンプルやトライアル向けの少量・ミニサイズだ



ECO PROJECT